



ペーパーサートの研修風景

●市立図書館へのボランティア作業

次に、ラオス・ビエンチャン市立図書館へのボランティア支援活動は、①花壇の新設作業、②図書館の内装作業、③書籍の修理作業の3つをツアー参加者が分担して従事。

●今年の特徴

今年のツアーの内容は、①カンボジアのスラムの子どもたちの教育支援のためのペーパーサート研修の実施、②ラオス・ビエンチャン市立図書館へのボランティア支援活動、③ラオスとカンボジアの子ども施設訪問と子どもたちとの交流、④現地NGOへの視察・交流の4本柱であった。

●ペーパーサート研修の実施

まず、都本部分ツアーの最大の特徴であるペーパーサート研修だが、カンボジアのスラム街の学校に行けない子どもたちを対象に識字教室を実施している現地NGO・SCADPのスタッフ22名を中心に、NGO関係者や幼稚園教諭養成学校の教師など32名を対象に実施した。演題は世界的に有名な「3匹のこぶた」。

ペーパーサートの基礎から製作・実演までを四日間実施した。現地受講生の熱心で積極的な参加の下、終始笑い声に包まれた雰囲気の中で実施され、好評のうちを終了した。



ペーパーサートの練習

わずか、一日間の作業だったが、大変喜ばれる結果となった。

●各施設への視察と子どもたちとの交流

次に、子ども施設への視察と子どもたちとの交流だが、ラオスでは、①ドンコ

# 報告 ラオス・カンボジア 子ども支援ツアー

## 自治労東京都本部 第7回

イセセンター(日本でいえば児童館のような施設)②ビエンチャン図書館併設の多目的ホール。

カンボジアでは、③スラム街で識字教室を実施している寺小屋教室を訪問、子どもたちと歌や踊り、折り紙、紙細工などを一緒に作る等の交流を行った。

●現地での子ども支援 NGOとの交流

次に現地NGOへの視察と交流では、ラオスでは、人身売買被害者支援NGO (afesip)を視察、人身売買される子ども達の実態と救済活動の現状を学んだ。カンボジアではスラム

●最後に

これまでの7回のツアーで、組合員の参加者総数は延べ158名。ペーパーサート研修への現地の参加者総数は延べ201名となった。ラオスにおける図書館支援、カンボジアにおけるペーパーサートの普及。いずれも次の時代を担う子ども達



ペーパーサートに見入るカンボジアの子どもたち

街で学校に行けない子どもたちや、親に捨てられた子ども達を養護支援し、識字教室を実施しているNGO (SCADP)を視察。

近代化の過程で農村から都市へ流入し、スラム街が形成、学校に行けない子どもたちや、親に捨てられる子どもが産生。その現状を知ることができた。



うちの紙人形

東京都清瀬園労組では、事業廃止による障害者福祉の後退と解雇問題に直面している。

当園は東京都が設置し、社会福祉法人東京都民生委員連合会が運営する内部障害者更生施設で心臓、じん



法人との団体交渉

後一方向的に検討会を打ち切り、2年経過しても何ら方向を示さずに7月9日に、突然廃止を発表した。12年2月の都議会で設置条例廃止提案をし、3月に指定管理終了とともに事業廃止する計画でいる。すでに市町村や政

東京都清瀬園労組のたたかき

『全員解雇命令』に抗して障害者福祉事業継続を!

患者団体には今年10月で新規利用を停止すること伝え、既成事実を進めている。園の廃止は障害者福祉にとって大きな後退である。私達は事業継続を勝ち取り障害者福祉を守り抜く決意だ。(対比地邦久委員長)



報告する島田善次さん(普天間米軍基地から爆音をなくす訴訟団团长)

普天間米軍基地爆音訴訟支援・連帯行動

『米軍機飛行差し止め却下』の不当判決

福岡高裁那覇支部は普天間米軍基地爆音訴訟に関して、国に対して原告396人全員への損害賠償を認め、米軍機の飛行差し止め、却下する判決を下した。

集会は、この判決を受け、普天間爆音訴訟団、全米基地爆音訴訟団、原告団連絡会議、沖縄一坪反戦地主

会関東ブロックの共催で、8月2日、全水道会館で開かれ255人が集まった。主催者の「普天間米軍基地から爆音をなくす訴訟団」の島田善次さんは「アメリカだけでなく、日米安保の必要性を言いがかりで、普天間爆音訴訟に押し付けて、平然としている日本政府を許さないと怒りを述べた。

特別報告では、伊波洋一宜野湾市長が普天間基地の危険性を訴えた。アメリカ国内では、基地の滑走路両端に設けられた、いわゆる「感」と判決を批判した。

普天間基地爆音訴訟団の加藤裕事務局長は、裁判の経過報告と判決内容を報告し、騒音に低周波音による精神的苦痛の増大を認め、これまでの水準に比べて慰謝料が倍増しているが、飛行差し止めについては、従来のアメリカ軍による『第三者行為』で、飛行差し止めを退けたことは遺憾」と判決を批判した。

宮崎「口蹄疫」被害農家支援カンパ 27単組から 2,001,467円

ご協力ありがとうございました!

宮崎県で猛威を振るった家畜伝染病・口蹄疫(こうていえき)は、県が「非常事態宣言」を2010年7月末に解除したことで、地元へ安心感が広がり、県民生活にも活気が戻りつつある。しかし、口蹄疫被害額5年で計2350億円。宮崎県本格復興へは長い道のりとなる。